

ひと あい えどがわ

江戸川総合人生大学は、「地域のために自分の力を活かしてみたい」という方を応援するため、江戸川区が開設した大学です(学校教育法で定める正規の大学ではありません)。

2022.4
No. 46



撮影:堀越 実(介護・健康学科 16期)



新川千本桜
20種700本以上の桜が咲いています。
人生大学の学生たちが桜を守る活動をしています。



新川では人生大学の学生・卒業生が区民とともに活動しています。「新川げんき会」が清掃活動やイベント活動を、「新川の木札を守る会」がソメイヨシノ以外の桜に木札を取り付けて、憩いの場を守っています。





11月
2021年

北野学長と齊藤区長を囲んで2班に分かれて記念撮影しました



江戸川総合人生大学 初めての宿泊研修

安曇野市で学んだまちづくりのヒントをお伝えします！

2021年11月4日～5日、江戸川総合人生大学として開学以来初めての宿泊研修が、友好都市である長野県安曇野市の江戸川区立「穂高荘」で行われました。

穂高荘は北アルプスの3,000メートル級の山々を望む緑豊かな

田園地帯に位置し、良質な温泉が人気で多くの区民が訪れています。研修には17期の新入学生52名が参加し、絶好の秋晴れの中、安曇野市と江戸川区について学び、学生間の親睦を深めました。

齊藤猛 江戸川区長の「えどがわ入門講義」で研修スタート！



90分を超える熱のこもった講義でした。区長は講義のあと、公務のため東京にとんぼ返りされました。お疲れ様です！

「ともに生きるまち」を目指して

23区の中で江戸川区は以下の項目で1位です。

- ・区立小学校の数…子どもが多いまち
- ・老人クラブの数…高齢者が元気なまち
- ・公園の面積…水とみどりの豊かなまち

江戸川区の特徴を生かしつつ、今、直面している課題の解決に向けて、組織のタテ割りをなくし、「バラバラではなく、ごちゃまぜ」の新しい発想でコミュニティを作り、様々な事業を行って共生社会を推進していきます。

江戸川区児童相談所

虐待・育児放棄された子どもを保護し、居場所を提供

なごみの家

介護・障害・子育て・貧困などをまるごと対応

放課後補習教室

2022年度からすべての小中学校で実施

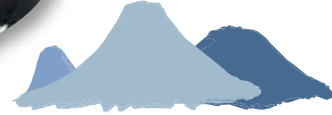
ほかに「子ども朝ごはん食堂」「医療的ケア児コーディネーター」「人生100年時代対応」「みんなの江戸川大会議」などに取り組んでいます。

区政を通してSDGs実現

江戸川区は「ともに、生きる」をスローガンに、誰もが安心して自分らしく暮らせるまちを目指しています。SDGsの目標「誰ひとり取り残さない」とも共通の理念で、内閣府が選定する「2021年度SDGs未来都市」の一つにも選ばれました。区政を通してSDGsの目標達成を目指します。

安曇野市の市民団体と交流会を行いました

安曇野市役所は、外壁に市有林を伐採したヒノキを、内装に県産のカラマツを使用した印象的な建物です。入口で職員の皆さんが総出で出迎えてくださいました。庁舎内で市民活動に取り組む4つの団体から活動の紹介があり、交流を図りました。



NPO法人 安曇野ふるさとづくり応援団

Uターン者がふるさと(安曇野)の自然、歴史、文化、風土などを学びながら、ふるさとの良さを再発見し、地域の活動団体との交流活動を通して、ふるさとの良さを大切にしまちづくりに努めています。安曇野の地域ガイドを育成する「案内人教室」を開催しています。



安曇野案内人倶楽部

倶楽部では日々仲間と研鑽を積み、安曇野の案内人事業をしています。生き生きと話す内容は郷土愛に溢れ、自然の素晴らしさが伝わってきました。他にもクラフトショップ・ミニカフェの運営や楽しいイベントを企画し、安曇野のまちづくりに貢献されています。



NPO法人 楽々安曇野

安曇野というと北アルプスを思い浮かべてしまいますが、「楽々安曇野」のテーマは、安曇野市周辺の標高の低い山です。その自然、歴史、文化の保全と紹介を進める活動を展開しています。最近静かなブームを呼んでいる「低山登山」を実践していて、山好きの興味をそそられます。



NPO法人 あづみ野風土舎

緑のカーテンの普及に努める団体です。ツル性の植物を窓や外壁で成長させる講習会などを開催し、室温上昇の抑制、地球温暖化防止に取り組んでいます。15年に渡って活動されており、知恵と工夫で安曇野を元気にしていきたいという姿勢に大変感銘を受けました。





研修 Topics



快晴の中、はとバスで出発！
車内での自己紹介は
新入学生ならではの、ですね。



往きに立ち寄った談合坂SA、そして諏訪湖SAでは
諏訪湖がきれいに眺められました。



初日は大王わさび農場で昼食。豊かな湧き
水と広大な畑で栽培されたわさびは大変
美味でした。

1日目の夕食後
コロナに配慮しながら
懇親会で交流



2日目の
昼食



2日目の朝、穂高荘周辺を散策。芝生広場の大きなイチョウと日本
庭園の東屋と紅葉が印象的です！



穂高神社にお参りして、帰路につきました。



途中、双葉SAで見事な富士山に出会いました。

事務局コメント

感染状況とにらめっこで「決行か！断念か！」ハラハラドキドキの日々からいざ決行となつてからは、道中の「安全」と「楽しみ」
を天秤にかけ悩ましい日々を過ごし、いよいよ出発！

素晴らしい天気と皆さんの笑顔に囲まれてほっと一安心。帰りのバスでは皆さんから「楽しかったー」の声に感無量の事務局でした。

卒業生の活動を取材してきました

えどがわ・インドダンサーズ

取材：新田 中嶋(国際16期)



皆さん、“ボリウッドダンス”をご存知ですか？
インド映画のミュージカル場面で登場する、明るい音楽に合わせて大人数で楽しく踊るダンスです。

ボリウッドとは、インド映画の聖地Bombay(現 ムンバイ)の「B」をアメリカの「ハリウッド」にもじって作られたようです。

『えどがわ・インドダンサーズ』は、このダンスによる地域祭りの参加や施設訪問等を通して、区民の方々と楽しく交流しています。

2009年に大学の3期生が立ち上げ、現在16期生も含めて40代から85歳までの10名で活動中です。

今は、アフターコロナの活動再開に向けて週1回の練習に励んでいます。
介護施設訪問やイベント出演等ご依頼がありましたら、ご相談ください。

Email : yoyociva@keh.biglobe.ne.jp (代表 千葉)

★坂口講師(上の写真前列中央・2011年より指導)インタビュー

— インドダンスを始めたきっかけは？

学生時代の恩師の影響でインド文化に興味を持って、上京後本格的にレッスンを受けてインドダンスを学び始めました。

— 今後の活動に期待する事は？

ボリウッドダンスをボランティア活動に取り入れている団体は貴重な存在なので、今後も長く続けて欲しいと思います。



音訳ボランティア「風の会」

取材：難波(国際17期) 江嶋(まち17期)
文：大塚(国際17期)

視覚障害などで読むことが困難な方々に、文字などを音声に換えて情報を伝える(音訳)活動を行っている音訳ボランティア「風の会」の活動の様子を見せていただき、代表の田部井さんよりお話を伺いました。

「風の会」は創立24年、会員数26名です。

主な活動内容は①対面朗読(依頼者に直接音訳)②依頼された本や新聞などの音訳・録音③「広報えどがわ」「区議会だより」の音訳・録音です。

会員は音訳技術向上のため、練習や勉強会は欠かせません。

コロナ禍は、極力人と人の接触を避け、依頼本の音訳、作成など個々にできることは手分けして行うようにしています。

西葛西図書館の対面朗読室を開設当初から利用されている方からは「風の会」の皆さんが優しく、丁寧に対応してくださり、自分も優しい気持ちになれるのが嬉しい。本の内容について意見交換や共感し合えることが楽しい等という声が聞かれました。

田部井さんが「風の会」に参加するようになった経緯ややりがい等について話してくださいました。

ご自身の視力が低下する中、視力障害の方々へ何か役に立ちたいと、音訳ボランティア養成講座の受講と相俟って、人生大学の社会活動体験(40時間)を「風の会」で行ったことがきっかけで「風の会」でボランティアを始めました。毎月、自分が音訳したCDを待っていてくれる方がいると思うと音訳ボランティアをやっていて良かったと思います。対面朗読の利用者に喜んでもらえることや自分が音訳したCDができ上がった時などにやりがいを感じます。

音訳のための下調べに時間を費やすことも多く、音訳活動には限界がありません。これからもより深く音訳活動に携わっていきたいとのことです。

今回の取材で「風の会」は、会員同士の間関係の構築がよくできていること、利用者のために、利用者に喜んでもらえるためにと日々研鑽を重ねていること、利用者一人一人に優しく丁寧に関わる姿等に感動しました。



(対面朗読の様子)

“外国人との違いを知ることがは新たな発見あり”

夫はガーナ人。国際コミュニティ学科では共感する講義も多く毎回楽しみにしています。国際結婚はお互いの文化も家族、宗教も違うことで様々な葛藤もありますが、その違いを知ることが新しい世界を発見する事も確か。しかし忍耐力は必要です。

先月、ある記事で「日本人は親切ではない」という見出しがありました。これを見て思い出したことがあります。ガーナ人の夫は日本ではマイノリティーです。町で同じアフリカ系の人々がすれ違うと、必ず彼らは“アイコンタクト”をしています。お互い全く知らない人達にでもです。なぜそのようなアイコンタクトをしているか夫に聞いてみたら、異国ではマイノリティー同士なので挨拶をするのが習慣だと。以前、夫は見ず知らずのアフリカ系の人から「今、お金がないので助けてほしい」と頼まれたので「即お金を渡した」と言っていました。我々が見ず知らずの人からお金を貸してくれと頼まれて、何も考えず渡すでしょうか？ 夫は明らかに“バカがつくほどのお人好し”なんだと最初は思っていました。ただ彼は「困っている人がいたら助ける」という答えでした。この貸したお金は戻ってこないことは最初からわかっています。これは美談でもなんでもなく、彼らなりの仲間を助け守るといった行動なのです。

世界の寄付をする国のランキングがありますが、日本はアフリカ諸国よりランキングがかなり下なのをご存知でしょうか。残念ながら日本は幸福度ランキングでも下です。その原因は様々でしょうが、一度外国人の人たちの行動や発言などの違う点を見つけてみることで、日本が幸福度をあげる原因が掴めるかもしれません。

国際コミュニティ学科 17期生 内海京子



家族と親戚/2007年ガーナ

同窓会の窓

同窓会会員は2022年1月現在約450名です。卒業時の各クラスから選出された幹事が中心となって会員や地域の皆さま向けに親睦や生涯学習のための各種イベントを実施し、他に趣味を活かしてのクラブ活動、地域活動グループへの支援などを積極的に行っています。

先日訪問したフードバンクの地域活動グループでは、自分たちができることをするという気概に満ちており、その行動力に感嘆しました。これもひとえに人生大学での学びと繋がりがあつての活動です。

コロナ禍で活動も滞りがちですが、この繋がりを絶やすことなく続けていけるように同窓会は会員の皆さまをバックアップして参ります。



同窓会会長 松浦松子

編集後記

安曇野市で、市民との交流を交え「まちづくり」をテーマにした宿泊研修が実施されました。市民の皆さんの「安曇野のまち」を思う気持ちや「まちづくり」の地道な活動を肌で感じる事ができました。人生大学で学んでいる者として、また江戸川区民として「私たちのまち」を住みやすい所にしていく担い手になっていこうという思いを強くしました。

米村康子

編集委員

江嶋裕二・篠崎広樹(まち16)、中嶋美代子・新田隆(国16)
佐藤知子・若松信行(子16)、伊香三省・米村康子(介16)
花上憲司・真瀬健一(まち17)、大塚恭子・難波紀代子(国17)
佐藤晴美・福田裕子(子17)、秋葉成人・池田正子(介17)

表紙のご案内

新川げんき会

新川周辺の清掃活動や「新川さくら館」での新川あさ市などのイベント活動を続けています。

問い合わせ先 有村正史 090-7739-6450

新川の木札を守る会

桜の種類を表示する木札の取り付け・取り換え活動をしています。

問い合わせ先 秋葉成道 2872sigemiti@gmail.com

※情報紙内の写真は、撮影時のみマスクを外しています。

